

賀茂

賀茂

観世流謡曲 元和卯月本

16-001

16 賀茂

国立国会図書館







第  
 清き水と尋てや （二） 賀茂の  
 宮居子まゝ （一） 松是 （二） 檜洲  
 室乃明神より （一） 祓禊乃  
 ものあり梅も都乃賀茂と當  
 社室の明神は清一醉より （一） 賀  
 久 （一） まゝ （一） 美路 （一） 所 （一） 作  
 程 （一） 此度 （一） 思 （一） 立 （一） 都 （一） 乃 （一） 賀 （一） 茂 （一） 一 （一） 也



賀茂





急人 楷磨の空乃とほろ乃  
未明のしら松衣色しうし  
志のゆるかき行舟も乃ほろ  
雲井や久し乃月世も乃  
山陰乃もの宮居乃名乃わく  
御平流や清きうあま心水雲  
嶺前乃りりり乃づらなるなり

世のえん乃  
あまのまのまのあまのよも  
たのゆの道もいさり  
空乃あまの月の影更て秋程も  
あまの松川乃も涼きう浪乃  
心もをりる水桶乃もら顔乃  
あまのあまの命の程乃松乃  
松乃あまのあまの乃乃乃官居



くちしめ心りれ 頼学ちるは  
此神子よきへりあをく向あよ  
<sup>上</sup>法平流の聲ももきしさる  
かきや 紅名もちる梢よ  
神音より 節公村まきうそよ  
行ゆらそ今一通り村雨の雲も  
か若ろよあひつくだ夏あさあの

河原くまひともりあはうと  
踊し 踊る子果成あは  
壽し 手事りん <sup>三女</sup> 是しあは  
あまろそへ見列りあはる也  
げくよち乃法平流あはくは  
<sup>上</sup>実くよ後しあはるあはきと  
檜川室乃明神乃神識のも乃









三  
うらなをあらく一筆をあらハ  
まへ一昔此賀節の星よ奉乃  
氏女もつひ一人給ふ夕あゝ  
は思ふよつて水とくかた  
平向きよよある時らとよら白  
羽乃矢やとら流き来り此高桶子

うらなをあらく一筆をあらハ  
まへ一昔此賀節の星よ奉乃  
氏女もつひ一人給ふ夕あゝ  
は思ふよつて水とくかた  
平向きよよある時らとよら白  
羽乃矢やとら流き来り此高桶子  
うらなをあらく一筆をあらハ  
まへ一昔此賀節の星よ奉乃  
氏女もつひ一人給ふ夕あゝ  
は思ふよつて水とくかた  
平向きよよある時らとよら白  
羽乃矢やとら流き来り此高桶子  
うらなをあらく一筆をあらハ  
まへ一昔此賀節の星よ奉乃  
氏女もつひ一人給ふ夕あゝ  
は思ふよつて水とくかた  
平向きよよある時らとよら白  
羽乃矢やとら流き来り此高桶子



神と申す頃存三可乃神也と  
申すは世をいへりわのまもの  
祚祜いふありぬる 云々  
まゝしりりしりしりしりしり  
やたきりくの治りし清代をつま  
白羽た百萬代乃ともまてし  
ら筆子妙も心あり ハキヤ

まけはる程や極く具矢いふ  
代乃と末乃世しありしめ矢也も  
清祚祜も謂とある ハキヤ  
名書ハ ハキヤ 陰ハありし  
事も ハキヤ 心しりしりしりしり  
ころも ハキヤ ありしりしりしり  
賀存乃に瀬も碁家名の ハキヤ 下と







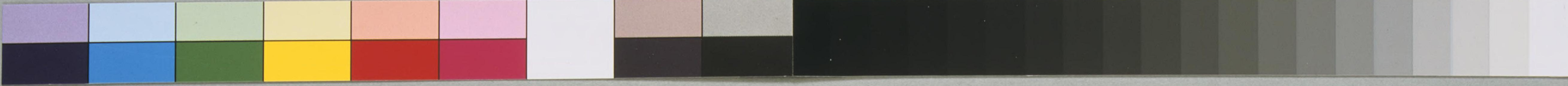




語をよむとてはるる人あり  
かたは今日思ふにまじりて  
魚子ももつとて人給り君を  
まじりて神徳と告ぐるまじ  
神にまじりて神徳の誠  
をあらはし、清格やふありまじ  
ありんども、名りありまじら  
の

が、もとあつた、  
子年まじりて、  
まじりて、  
天女上  
恙有難乃、  
まじりて、  
ありんども、  
ありんども、





<sup>上</sup>わさくわさくわ代とわさくあり  
<sup>上</sup>まゆり一亭一<sup>上</sup>やあ君乃  
<sup>下</sup>りくもの白此と<sup>上</sup>時<sup>上</sup>る  
<sup>下</sup>ありと<sup>上</sup>さ<sup>上</sup>る<sup>上</sup>感<sup>上</sup>應<sup>上</sup>あり  
<sup>下</sup>影向<sup>上</sup>微妙乃相好<sup>上</sup>在<sup>上</sup>嚴<sup>上</sup>ま乃<sup>上</sup>行<sup>上</sup>  
<sup>上</sup>まよ<sup>上</sup>あり<sup>上</sup>る<sup>上</sup>や<sup>上</sup>負<sup>上</sup>荷<sup>上</sup>乃<sup>上</sup>山<sup>上</sup>  
<sup>上</sup>あ<sup>上</sup>る<sup>上</sup>湯<sup>上</sup>平<sup>上</sup>流<sup>上</sup>乃<sup>上</sup>陰<sup>上</sup>  
<sup>下</sup>ろろ<sup>下</sup>あ<sup>下</sup>る<sup>下</sup>乃<sup>下</sup>袖<sup>下</sup>と<sup>下</sup>行<sup>下</sup>  
<sup>下</sup>り<sup>下</sup>て<sup>下</sup>す<sup>下</sup>る<sup>下</sup>を<sup>下</sup>商<sup>下</sup>と  
<sup>下</sup>う<sup>下</sup>ま<sup>下</sup>す<sup>下</sup>り<sup>下</sup>る<sup>下</sup>乃<sup>下</sup>山<sup>下</sup>の<sup>下</sup>草<sup>下</sup>木<sup>下</sup>  
<sup>下</sup>即<sup>下</sup>橋<sup>下</sup>て<sup>下</sup>ま<sup>下</sup>乃<sup>下</sup>あり<sup>下</sup>る<sup>下</sup>を<sup>下</sup>見<sup>下</sup>  
<sup>上</sup>我<sup>上</sup>は<sup>上</sup>是<sup>上</sup>王<sup>上</sup>城<sup>上</sup>と<sup>上</sup>ま<sup>上</sup>る<sup>上</sup>君<sup>上</sup>乃<sup>上</sup>道<sup>上</sup>  
<sup>上</sup>子<sup>上</sup>雷<sup>上</sup>乃<sup>上</sup>神<sup>上</sup>也<sup>上</sup>  
<sup>上</sup>あ<sup>上</sup>る<sup>上</sup>乃<sup>上</sup>諸<sup>上</sup>天<sup>上</sup>







善神とあつて虚空より  
 又四柱を音法乃方便  
 同唐結縁乃す  
 沙牟や那  
 見ろろ乃雲井  
 雲霧をうら  
 ろ乃露もも  
 ちるい序乃上托  
 方ろる足音ハ  
 ほうろくこあ  
 かつるくろ乃穀の時もまれ  
 五こく成能も四去を志白こ  
 だらまる時ハこ乃神徳と  
 威えを何ろり  
 湯戸して

善神とあつて虚空より  
 又四柱を音法乃方便  
 同唐結縁乃す  
 沙牟や那  
 見ろろ乃雲井  
 雲霧をうら  
 ろ乃露もも  
 ちるい序乃上托  
 方ろる足音ハ  
 ほうろくこあ  
 かつるくろ乃穀の時もまれ  
 五こく成能も四去を志白こ  
 だらまる時ハこ乃神徳と  
 威えを何ろり  
 湯戸して



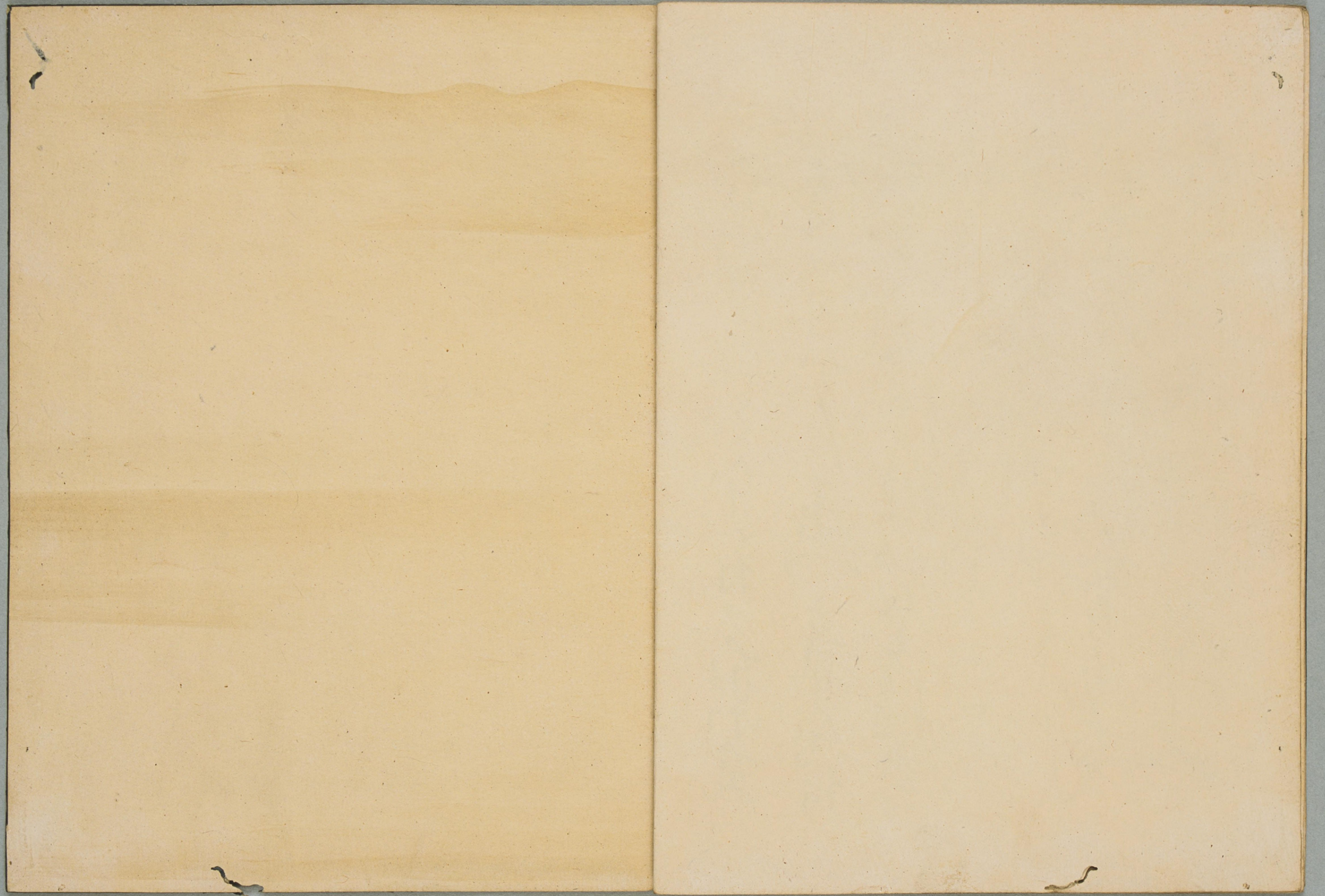
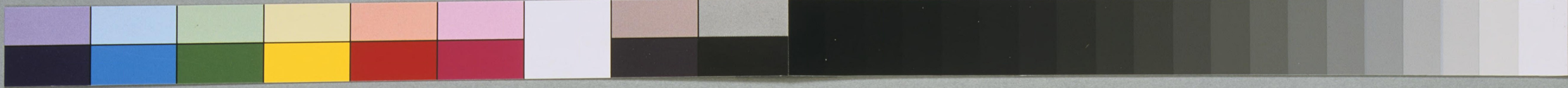


神祖乃神、統乃森、子乃花、云々  
一、是、終、之、相、立、之、也、雲、霧、心  
一、是、終、之、相、立、之、也、雲、霧、心  
一、是、終、之、相、立、之、也、雲、霧、心  
一、是、終、之、相、立、之、也、雲、霧、心  
一、是、終、之、相、立、之、也、雲、霧、心  
一、是、終、之、相、立、之、也、雲、霧、心  
一、是、終、之、相、立、之、也、雲、霧、心  
一、是、終、之、相、立、之、也、雲、霧、心  
一、是、終、之、相、立、之、也、雲、霧、心  
一、是、終、之、相、立、之、也、雲、霧、心

右百番之、女者、家来直  
傳石岡が左妻、音早句付  
依波板紀程、心今清書  
加奥女、早

元和六年 祝世左近大夫  
卯月日 菅原五



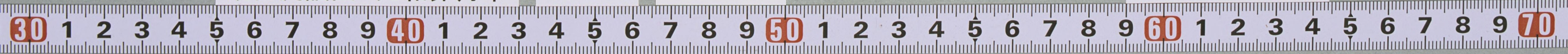


観世流謡曲 元和卯月本

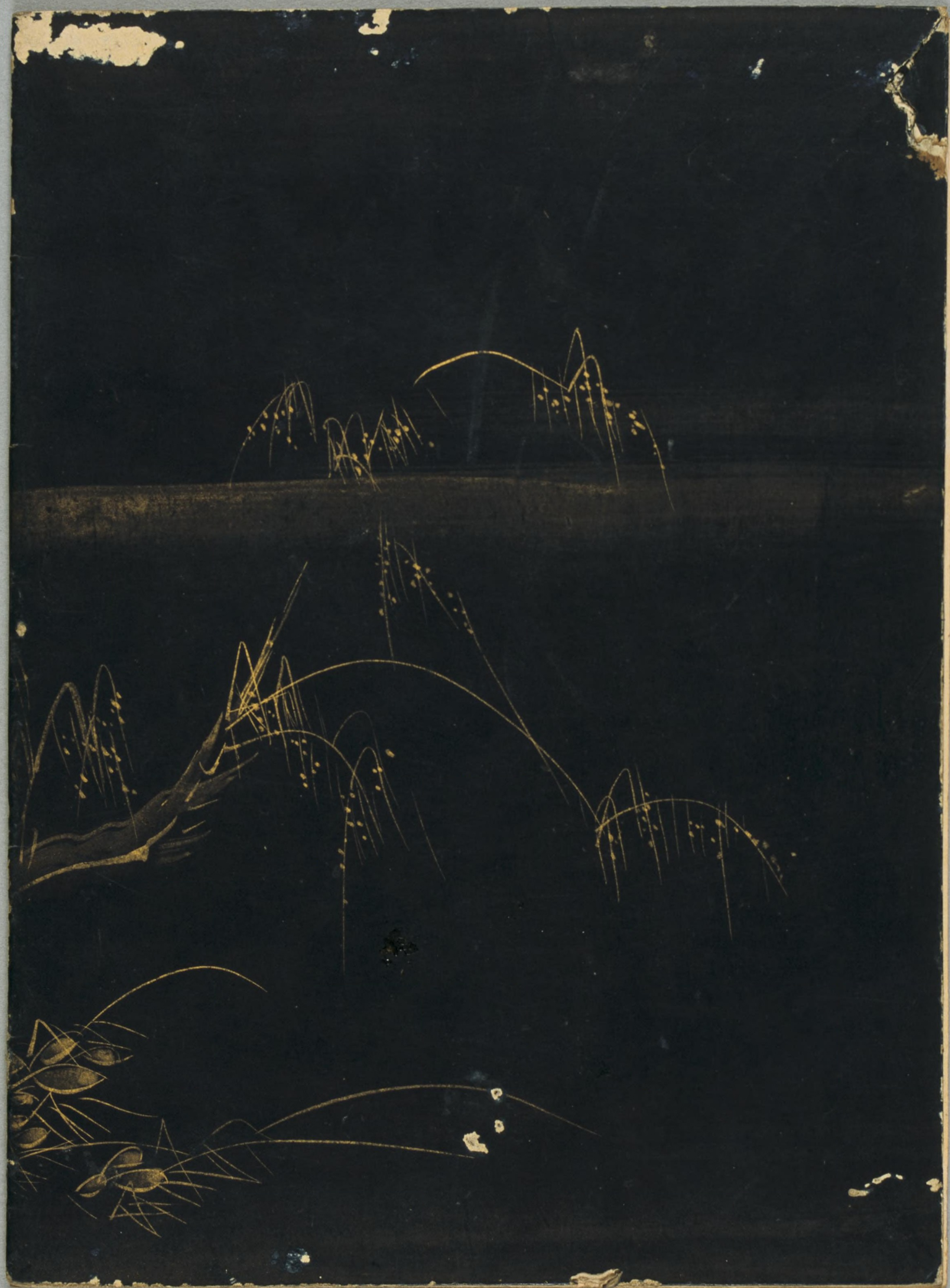
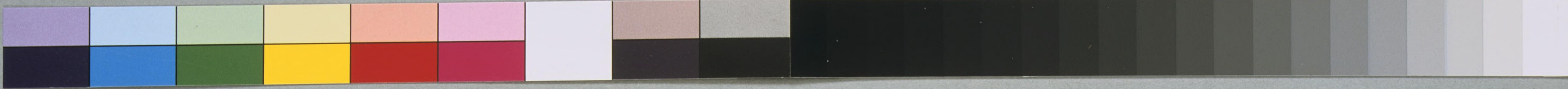
16-014

16 賀茂

国立国会図書館







観世流謡曲 元和卯月本

16-015

16 賀茂

国立国会図書館

